

令和元年度「町村議会議員特別セミナー」に参加しました。

○近未来の日本農業と地域社会 ～政策を考える基本視点～

講師：福島大学食農学類長教授 生源寺 眞一氏

○内発力は逆境を順境に変える

講師：長野県川上村長 藤原 忠彦氏

○「子育て」で地域に人を呼び戻す ～森の幼稚園を起点とした取組～

講師：NPO法人 智頭森のようちえん まるとんぼう 理事長 西村 早栄子氏

○企業活動から見える地域の関わり

講師：タビオ株式会社代表取締役会長 越智 直正氏 の4氏の講義を受けてまいりました。

○内発力は逆境を順境に変える

講師：長野県川上村長 藤原 忠彦氏

・概要

川上村は長野県南佐久郡の千曲川の最上流部に位置する、日本有数のレタスの産地として知られており、村内の就業者の6割が第一次産業に関わっています。

人口4,833人（内外国人約1,000人）、役場所在地の標高は1,185m。

平成30年度の1戸当たりの販売額は4千万円、518戸の生産農家が大型トラクター2,000台、トラック200台を所有している。

・農業情報ネットワーク化

高原野菜の栽培から30年が経過し、他の産地にレタスの価格や信用面で後れを取るようになった。その対策として、全村の情報化を図った。昭和63年に川上村CATVで市場情報や気象情報の発信を開始した。農業情報ネットワークシステムを構築し、より高度な気象情報・市場情報をリアルタイムで提供することで、生産の効率化や農業の戦略化を実践した。

・路線バスの存続

廃止が決定した路線バスを村営化した。しかも、路線バスとスクールバス、保育園送迎バスを併用し車両と運転手を有効利用することで、経費の節減を図った。

当時は、路線バスは運輸省、スクールバスは文部省の所管で併用の認可はなかなか下りなかった。併用を実現するための関係部局の説得を繰り返した。文部大臣から国内で初めてスクールバスの住民利用の認可が下りた。これは行政だからこそできた運用方法である。

・ヘルシーパーク

村民の心身の健康増進を目的に作られた施設で、診療所とデイサービス、憩いの湯やトレーニングルーム、喫茶室があり、24時間の訪問介護も行っている。

川上村の健康老人率（平成22年度）は85.1%、65歳から74歳までに限ると96.7%となっており、平成30年度一人当たり医療費は188,023円で長野県一低い医療費である。

村づくりは人づくりと24時間開館図書館（午後5時15分から午前8時15分の間は無人対応）や大規模な文化センターを設立した。

・所感

藤原村長は、路線バスの村営化、農業情報ネットワーク化、ヘルシーパークなど多くの事業を実施してきたが、どれをとっても小さな村の財政では実現は難しい事業ばかり。

事業にかける熱意とパワーがあれば国を動かすことができると述べていますが、自治体の大小に関わらず必要なことです。箕輪町も大いに見習うべきと痛感しました。

藤原語録 三風の原則（風土・風習・風味）は、野菜を育む風土、伝統や文化が創り出す風習、高原野菜から成り立つ風味とのこと。逆境が人をつくり、産業を生み出し、人が人を支え、挑戦が人をたくましくする。

町づくりで一番大切なことは人づくり、学習は知識の蓄積をします。

町づくりは人づくり、アイデアを実行する熱意とパワーの必要性は大いに共感するところです。

○「子育て」で地域に人を呼び戻す ～森の幼稚園を起点とした取り組み～

講師：NPO法人 智頭森のようちえん まるたんぼう 理事長 西村 早栄子氏

・概要

森のようちえんは、1950年代中頃にデンマークで「子供たちに幼いころから自然に触れ合う機会を与え、自然の中でのびのびと遊ばせたい」という願いを持つ母親が、自分の子供たちを連れて毎日森に出かけたのが始まりとされています。

日本でも10年前ころから少しずつ広がっているようです。

日本の森のようちえんは、フイード、園舎の有無、活動の頻度、活動主体などが様々で、幼児の野外活動を総称して「森のようちえん」と言われているようです。

・智頭森のようちえんまるたんぼうの特徴と目的

園舎がない⇒自然（森）が育ちの場⇒自然の中の何でもありの野外空間で毎日過ごすことは、子供たちの心と体の成長に様々な刺激を与え、たくましい体としなやかな心をはぐくむことを目的とされています。

その他、日課がない、玩具がない、育ちを信じて待つなど子供たちを尊重し自由と責任を学ぶ。想像力・コミュニケーション力を鍛える。子供たちを信じることなどが主な特徴であり目的のようです。

・効果

子供の健全育成、子育て支援、新しい森林の利活用、交流人口の増加、地域振興、次世代の育成、少子化対策が挙げられています。

・所感

自然の中で子育てをすることは、森の幼稚園とは呼ばなくても、自然保育、野外保育、青空保育など様々な名称で自然体験を大切にした保育、幼児教育が実践されてきました。

長野県でも、信州山保育（信州型自然保育）認定制度で、豊かな自然環境や地域資源を積極的に活用して様々な体験活動を行い、子供の主体性や創造性、社会性、協調性などを育み、心身共に健康的に成長することを目指した保育を行っている保育園などを認定しています。

箕輪町でも、長田保育園、東みのわ保育園、上古田保育園、三日町保育園が認定され、心身共に健康的に成長することを目指した保育を行っています。山保育にはメリット、デメリットはありますが箕輪の子供たちが健やかにたくましく成長できるよう環境づくりに努めなければならないと痛感しました。